

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE埼玉県2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)平田倉庫株式会社 埼玉倉庫	階数	地上1F
建設地	埼玉県北葛飾郡杉戸町	構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	150 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2018年4月13日
敷地面積	27,045 m <sup>2</sup>	作成者	利根川 勝則
建築面積	14,158 m <sup>2</sup>	確認日	2018年4月16日
延床面積	14,158 m <sup>2</sup>	確認者	五洋建設株式会社 本社 一級建築士事務所

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3**

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.8

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.2

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.6

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	LED照明器具を採用し設備システムの高効率化を図る。 倉庫としてゆとりある空間を考慮した。 敷地内は緑化を設け、周辺の景観に配慮した。	その他 特になし
Q1 室内環境	工場用途のため対象外	Q2 サービス性能 建物の階高,空間の形状,自由さを考慮しゆとりある空間としている。
LR1 エネルギー	LED照明器具を採用し設備システムの高効率化を図る。	LR2 資源・マテリアル 特になし
		LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO <sub>2</sub> の削減

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS**  
 (仮称)平田倉庫株式会社 埼玉倉庫計画(AB棟)

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>						-	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>						-	-	-	-	-
<b>1 音環境</b>						-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル						-	-	-	-	-
1.2 遮音						-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能						-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能						-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	-
1.3 吸音						-	-	-	-	-
<b>2 温熱環境</b>						-	-	-	-	-
2.1 室温制御						-	-	-	-	-
1 室温						-	-	-	-	-
2 外皮性能						-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	-
2.2 湿度制御						-	-	-	-	-
2.3 空調方式						-	-	-	-	-
<b>3 光・視環境</b>						-	-	-	-	-
3.1 昼光利用						-	-	-	-	-
1 昼光率						-	-	-	-	-
2 方位別開口						-	-	-	-	-
3 昼光利用設備						-	-	-	-	-
3.2 グレア対策						-	-	-	-	-
1 昼光制御						-	-	-	-	-
3.3 照度						-	-	-	-	-
3.4 照明制御						-	-	-	-	-
<b>4 空気質環境</b>						-	-	-	-	-
4.1 発生源対策						-	-	-	-	-
1 化学汚染物質						-	-	-	-	-
4.2 換気						-	-	-	-	-
1 換気量						-	-	-	-	-
2 自然換気性能						-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮						-	-	-	-	-
4.3 運用管理						-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-	-
2 喫煙の制御						-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.43	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>						-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ						-	-	-	-	-
1 広さ・収納性						-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応						-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画						-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性						-	-	-	-	-
1 広さ感・景観						-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	-
3 内装計画						-	-	-	-	-
1.3 維持管理						-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計						-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保						-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>2.9</b>	0.50	-	-	<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.1</b>	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						2.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給排水:硬質塩ビ管B Eは不要				5.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性						<b>2.6</b>	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備						2.0	0.20	-	-	-

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.50	-	-	<b>3.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:7.8m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.06	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.57</b>	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			-	-	-	-	-
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.13	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.44	<b>5.0</b>	0.63	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.4</b>	0.60	-	-	<b>2.4</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	1.00	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出量73%	<b>4.0</b>	0.33	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.9</b>	0.33	-	-	<b>2.9</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県

# 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)平田倉庫株式会社 埼玉倉庫計画(AB棟)	BEE	1.3	BEEランク	★★★
------	--------------------------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
4.0	+	3.0	=	7.0	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満		良い 6.0以上		非常によい 6.8以上	
				すばらしい 8.0以上	

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	4.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.0
<配慮した内容を記述>			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述>			

: 入力欄